

竹原市教育委員会表彰

◇ 竹原市教育賞

本市内で特色ある取組により顕著な成果を上げた小学校、中学校、義務教育学校及びその教職員を、竹原市教育委員会が表彰するものです。

年度	氏名・学校名 (受賞時所属等)	功績等
令和元年度	黒川 以壽美 (荘野小学校)	平成 26 年度に竹原市立荘野小学校に教頭として赴任し、5 年間のこれまでの勤務において、常に的確な校長補佐を行うとともに、学校運営の要となり、地域と学校が一体となった教育活動を組織的に推進した。 学校の教育活動においては、荘野地域交流センター・田万里地域交流センターや地域住民との連携を進め、ゲストティーチャーへの依頼を円滑に行い、本校の「課題発見・解決学習」の充実に努めてきた。 緑化活動においても、地域の方から土づくりを学ぶことを企画提案するなど、学年及び担当教員に対しリーダーシップを発揮し、令和元年度広島県緑化功労賞の受賞につながった。
令和 3 年度	川内 直美 (大乗小学校)	竹原市立中通小学校で 5 年間校長として務め、学校経営に尽力した。 特に、平成 30 年度から令和 2 年度までの 3 年間には、広島県教育委員会より「学力フォローアップ事業」の指定を受け、児童の学力向上を図るための体制作りに務めた結果、著しい成果をあげるとともに、取組内容を竹原市はもとより、県内に普及するなど、竹原市の学校教育に大きく貢献した。 また、令和元年度第 70 回広島県小学校視聴覚教育研究大会の開催にあたっては、視聴覚機器を有効活用した算数科の授業づくりにおいて校内の研究体制を整え、ＩＣＴを活用した効果的な指導方法の工夫を図り、広く県内にその研究内容を提案することができた。
	徳森 友希男 (東野小学校)	市内で 8 年間管理職として（校長 7 年、教頭 1 年）職務を果たしてこられた。 特に竹原小学校で校長を務めた 4 年間には、市内の小学校長会の会長を務め、校長間の連絡調整を行いながら意思疎通を図るなど、竹原市教育に大きく貢献した。 また、コミュニティ・スクール事業を先進的に取り組み、実践内容を他校に紹介するなど、コミュニティ・スクール事業の普及に努めた。 さらに、今年度は東野小学校の校長を務める中で、学校経営を適切に行うとともに、市内新任校長に対して自身の経験を基に的確な助言等を行っている。

令和4年度	亀井 伸幸 (吉名学園)	竹原市内で管理職として8年間(校長7年 教頭1年)職務を果たしてこられた。 竹原市初の義務教育学校である吉名学園において、開校時から校長を務め、組織作りに尽力した結果、その取組内容を知るために多数の視察を受け入れてきた。 校長としてのこれらの実績により令和3年度には、広島県教育賞を受賞した。
	仁賀小学校 (校長 植野 洋一郎)	当校は、長年に渡り全校児童が太鼓の演奏に取り組み、学校行事等で保護者や地域に公開し、魅力のある学校について発信を続けてきた。 また、「けんみん文化祭ひろしま」における「和太鼓フェスティバル小中学校の部」において、優秀賞や特別賞を複数回受賞し、令和3年度には最優秀団体賞を受賞した。
	賀茂川中学校 (校長 北村 洋子)	当校は、令和2年度よりキャリア教育の充実を図り、課題発見や情報収集等の学習のプロセスを重視した「探究的な学び」を実現し、生徒に課題発見能力や情報収集能力、表現力等の育成に努めた。 これにより、広島空港主催のプロポーザル大会の2部門で最優秀賞を受賞させるとともに、一連の取組が評価され、第14回キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰を受賞した。
令和5年度	九十九 邦守 (竹原中学校)	本市内の中学校で英語科教員として18年間勤務し、生徒との信頼関係の構築を通して、組織的な生徒指導の推進を図った。 令和4年度から校長として竹原中学校へ赴任し、県教育委員会及び竹原市教育委員会での17年間に渡る行政経験も生かしながら、キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業の指定校の校長としてリーダーシップを発揮した。
	中野 愛 (竹原西小学校)	平成31年から県教委「小学校外国語パワーアップ事業」のパワーアップリーダーとして、また、令和3年度から小学校英語専科として竹原中学校区の4校を兼務し、外国語の指導に熱心に取り組んでいる。 令和4年度、県教委主催の「マナビノラボ」において、授業の録画を使って県内に実践を発表した。
令和6年度	忠海学園 (校長 伊場田 真彦)	令和3年4月から学校図書館の三機能を柱に据えた研究を推進し、「授業での学校図書館の利用」「児童生徒の読書活動の充実」「学校運営協議会の活用」「ボランティアの活用や学校図書館司書との連携」「一人1台端末の利用」に関する実践を重ね、その成果を令和5年度第65回広島県学校図書館研究大会において、県内外に広く公開し高い評価を得た。 同年、子供の読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞を受賞した。 令和6年8月には、広島県教育委員会主催の「令和6年度広島県子供の読書活動推進に向けた「夢あふれる学校図書館見学会」」の会場校として、学校図書館見学会を開催した。

令和6年度	坂田 絵理 (竹原中学校)	令和3年4月から竹原中学校区「キャリア教育推進地域」の研究推進リーダーとなり、中学校区全体の研究を牽引した。 その前年は、キャリア教育指導者養成研修を受講し、キャリア教育指導者としての知見を高めた。 令和5年6月、令和6年6月には西部教育事務所管内進路指導主事研において実践発表を行い、令和6年8月には竹原市学びのパワーアップフォーラムにおいて「社会とつながる本物の学び」というテーマで実践発表を行うことで、県内外に向け、これまでの研究の成果を広く普及した。
令和7年度	藤原 みのり (賀茂川中学校)	研究主任としてNIE（教育に新聞を）の活動を学校全体の取組として推進し、その取組の成果を実践報告書にまとめ、広く県内に普及した。 竹原市主催の「少年の主張」竹原市話し方大会出場では、校内における話し方大会を実施するなど、優れた指導力を発揮し、指導した5年間において、4名の生徒が市の代表として県大会へ出場し好成績を修めた。 令和3年度広島県中学校教科教育推進研修（国語科）においてデジタル機器を活用した授業改善に取り組み、令和5年度には特別支援教育コーディネーターとして、「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びプロジェクト」指定事業を推進し、その実践と成果を県内へ普及した。